

「ジョージアの小林亜星」

小野塚知二

前回は、第一次世界大戦を経験して、歌劇が救いのない方向に変化したのではないかと仮説を示しました。救いようのない現実には何とか形・記号・言語を与えて了解することが必要（あるいは必然）であるとするならば、人には何らかの救いが必要です。救いという意味が第一の道、救いの拒絶という意味が第二の道だとすると、どちらも「超越」して、物象化した乾いた記号の世界も意外に安楽をもたらします。二〇世紀中葉以降のいわゆる「現代音楽」の多くは、この第三の道を志向し、さまざまな技法と様式とを開拓しました。ただ、音が鳴っていても、そこに何の意味も、たとえば救いの有無すら見出せないとなると、表現に意味を求めようとする聴衆の多くは、この第三の道には安住できません。

二〇世紀の音楽は、一方では救いの有無といった過剰なほどの意味と、他方ではそうした意味が一切剥ぎ取られて、乾いた灰色の無機質な乱数のような音の羅列との両極の間を揺れ動いてきました。一人の音楽家がこの両極を遍歴したこと

もありますが、多くは分業体制で両極は構成されました。

アザラシヴィリ

アザラシヴィリ (Vaja Azarashvili, 1936-2024) は、明瞭に意味の世界で仕事をした作曲家です。それは、彼が、意味を剥ぎ取った音楽を「ブルジョワ的形式主義」として貶めたソ連時代に音楽教育を受けたからなのか、それとも、彼の生まれ育ったジョージア（殊にトビリシ）では、明晰な形式のうえに意味を載せたもの（あるいは意味をまとった形式）こそが音楽であると疑うことなく信じられていたからなのか、さらに、これらの背景のうえで彼自身が意味の音楽を主体的に選択したからなのか、ここでは速断できません。

アザラシヴィリは交響曲・歌劇・映画音楽や、最初の注目作であるチェロ協奏曲やヴィオラ協奏曲のような大編成の作品もありますが、今日演奏されるのは弦楽合奏や、弦独奏とピアノのための小編成の作品です。その中で特によく演奏さ

れるのが次頁の夜想曲です。ヴァイオリン（あるいはヴィオラかチェロ）とピアノで演奏されますが、弦楽器二丁の版もあります。譜例はヴァイオリン二丁版の最初の十八小節です。

譜例からわかるように、現在の日本に住むわたしたちの耳になじむ、昔（といっても、つい二、三〇年ほど前）、どこかで聞いたたり歌ったたりしたことがあるような気にさせる情感たっぷりの音楽です。譜例1の最初の九小節が序奏で、一〇小節目（練習番号1）から第一主題ですが、序奏もこの第一主題をほとんどそのまま使っています。どこがエモいのか、まず練習番号1から旋律を見てみましょう。第一〇小節の三拍目裏と四拍目で、ラ#とシが続いています。ト短調とト長調の間を彷徨うような旋律です。伴奏のピアノはト長調ですから、調性感が揺らぐほどではありませんが、単純なト長調よりもはるかに色気を感じさせます。次に、第一二小節は頭



アザラシヴィリ

からファ#で、本来のト長調音階の第七音（ファ#）より半音下がっています。伴奏もホ長調（ト長調のVI9=テンション和音）に転じています。続い

て第一三小節の最初の二拍分は旋律はシで、ここもII9のテンション和音です。第一四小節以下はIVの短調、I、V9と来て、Iに戻る準備をします。

ト長調の音楽ですが、旋律は非和声音が多いし、それに対応して和声もテンション和音主体で進行します。こう書くと、まるで二〇世紀のポピュラー音楽のようなのですが、旋律と、ピアノの分散和音および対旋律がいずれも横に綺麗に流れるので、演奏者も聴衆もそれらを「歌う」ことができます。音の横の動きに身を委ねることができるという点で、これは日本の歌謡曲や演歌にも通ずる特徴を備えています。指揮者の山田和樹氏がアザラシヴィリを「ジョージアの小林亜星」と評するのを聞いたことがあります。まさに歌謡曲風で非常にエモいのです。しかも小林亜星（1932-2021）とはほぼ同年代です。

これは二〇世紀各国の流行歌・映画音楽・ミュージカルなどに通ずる特徴です。一九二〇年代以降に生まれた人が同時代に馴染んだ音楽は、日本でも旧ソ連でも、さらには英国でもドイツでもアメリカでも、少なくとも都会で生まれ育った人にとっては決定的な相違はなかったということ。この曲とそれを「小林亜星」と聞きなすわたしたちとが物語っています。

アザラシヴィリはトビリシ音楽院でクラシック音楽の教育を受けたので、こうした情緒的な曲に「夜想曲」という一九

The image shows a page from a musical score for 'The Rite of Spring' by Igor Stravinsky. The score is written for piano and orchestra. The piano part is on the left, with multiple staves. The orchestra part is on the right, with various instruments. The tempo is marked 'Tempo 1°' and the dynamics range from 'rit.' to 'fff'. The score includes a piano part with multiple staves and an orchestra part with various instruments. The tempo is marked 'Tempo 1°' and the dynamics range from 'rit.' to 'fff'.

譜例2 無言歌 最後の12小節

ています。この無言歌の実際の演奏をいくつか聴いたことがあります。譜例のようなド派手伴奏ではなく、途中までのおとなしめの伴奏を最後まで通していました。譜例2の伴奏だと、チェロがせつかく高音域でがんばっているのに、ピアノの名人芸が目立ちすぎてしまおうのでしょうか。

ロシア ソ連の伝統とトビリシの伝統

アザラシヴィリは一九世紀初頭以来の西洋クラシック音楽の系譜を正統に継承しています。特に、一九世紀後半から二〇世紀のロシアとソ連の音楽は学校時代にさんざんたたき込まれたのでしょうか。「ラフマニノフに捧ぐ」という題名のピアノ伴奏付きヴァイオリン独奏曲がありますし、また、「四つの舞踏小曲」という組曲はショスタコーヴィチの「ジャズ（オーケストラのための）組曲」を思い起こさせる作品です。二〇世紀前半に米国で流行ったフォクストロット、ブルーズ、チャールストン、そして感傷的タンゴの四曲は、ショスタコーヴィチの「タヒチ・トロット」がそうであったように、ソ連の大衆の米国への憧れに応える小品となっています。アザラシヴィリのチェロ協奏曲やチェロ・ソナタは、小林重星風ではなく、むしろショスタコーヴィチの影響を感じさせます。

他方でトビリシの民族音楽の系譜も両親から受け継いでおり、「古いトビリシの主題による幻想曲」という弦楽合奏とピアノのための作品も残っています。わたしはジョージアの民族音楽的な特徴を知りませんが、夜想曲や無言歌の独特な節回しには民族音楽の興趣があるのかもしれない。不思議な、しかし親しみやすい魅力に満ちた音楽が、いまでもまだ可能なのだ教えてくれる人です。

おのづか・ともじ
東京大学特任教授／名誉教授

Andante cantabile

p

mf

f

1

2

13

譜例 1 夜想曲

無言歌

美しく載せて、欧州各地のサロンで流行しました。それが二〇世紀にはレコードやラジオで再生される流行歌や映画音楽・劇音楽に受け継がれたのです。アザラシヴィリの夜想曲も日本の歌謡曲・演歌も、長い目で見るなら、この二世紀以上のクラシック音楽からポピュラー音楽への系譜の中に位置づけることができるでしょう。似ていて当然なのです。

譜例2はアザラシヴィリがチエロとピアノのために書いた無言歌の最後の一二小節です。無言歌というのはメンデルスゾーンによって確立されたジャンルで、フィールドやシヨパンの夜想曲と似たような仕掛けの、やはりサロン向けの情緒的な音楽です。ただ、この曲の最後の部分でアザラシヴィリは小林亜星とは異なる性格も見せています。それはロシアから旧ソ連に受け継がれたクラシック音楽の伝統です。

この無言歌は出だしは比較のおとなしくて、二〇世紀のメンデルスゾーンといった趣なのですが、お終いの方になるとかなり派手な楽譜になります。譜例２の第八九〜九〇小節で、三連符の上に一六分音譜が載るのは、チャイコフスキーの管弦楽曲にはよくある用法で、非常に賑やかでしかも厚みのある音響を演出します。

また第九一小節以降のピアノはまるでラフマニノフの独奏曲か協奏曲を思わせる譜面で、非常に絢爛豪華な伴奏になつ

ロシア・ソ連の伝統とトビリシの伝統

アザラヴィイリは一九世紀初頭以来の西洋クラシック音楽の系譜を正統に継承しています。特に、一九世紀後半から二〇世紀のロシアとソ連の音楽は学校時代にさんざんたたき込まれたでしょう。「ラフマニノフに捧ぐ」という題名のピアノ伴奏付きヴァイオリン独奏曲がありますし、また、「四つの舞踏小曲」という組曲はショスタコーヴィチの「ジャズ（オーケストラのための）組曲」を思い起こさせる作品です。

二〇世紀前半に米国で流行ったフォクストロット、ブルーズ、チャールストン、そして感傷的タンゴの四曲は、シヨスタコーヴィチの「タヒチ・トロット」がそうであつたように、ソ連の大衆の米国への憧れに応える小品となっています。アザラシヴィリのチェロ協奏曲やチェロ・ソナタは、小林重星風ではなく、むしろシヨスタコーヴィチの影響を感じさせます。

他方でトビリシの民族音楽の系譜も両親から受け継いでおり、「古いトビリシの主題による幻想曲」という弦楽合奏とピアノのための作品も残っています。わたしはジョージアの民族音楽的な特徴を知りませんが、夜想曲や無言歌の独特な節回しには民族音楽の興趣があるのかもしれない。不思議な、しかし親しみやすい魅力に満ちた音楽が、いまでもまだ可能なのだと教えてくれる人です。